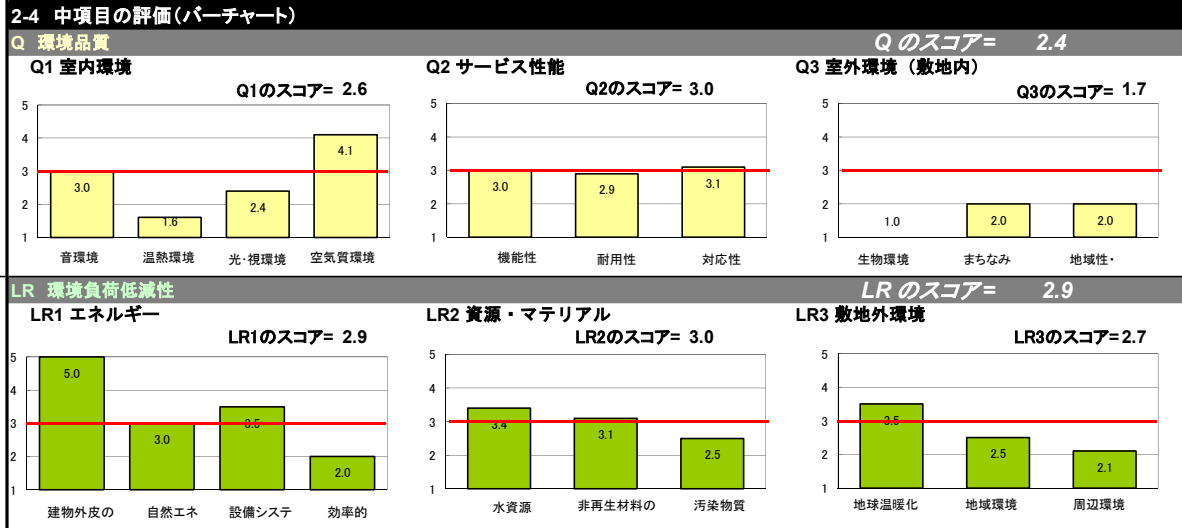
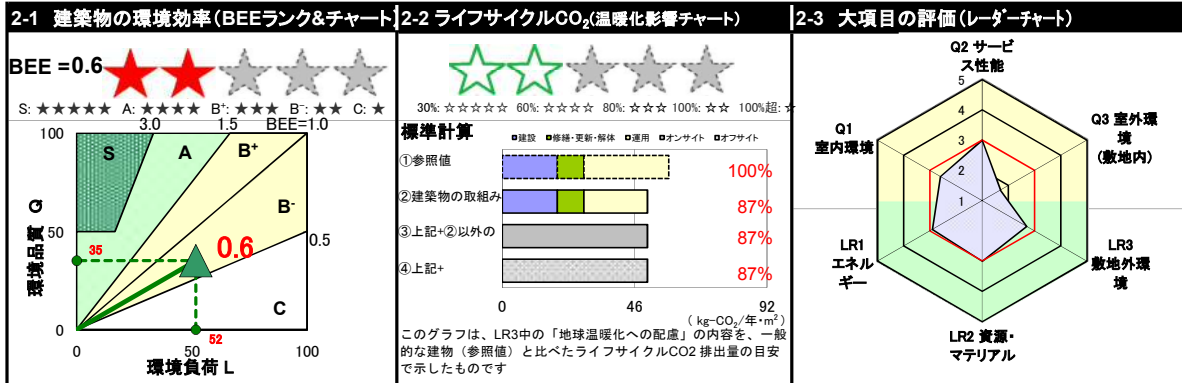


1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	株式会社エスラインギフ豊田支店		階数	地上3F
建設地	愛知県豊田市福受町中ノ切170番2		構造	S造
用途地域	市街化調整区域		平均居住人員	40人
気候区分	5地域		年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	事務所・工場		評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年9月	予定	評価の実施日	2017年12月2日
敷地面積	5,265 m ²		作成者	浅野 文昭
建築面積	2,271 m ²		確認日	2017年12月7日
延床面積	4,081 m ²		確認者	山中 幹根

外観パース等



3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.5</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 耐用性・信頼性、Q-2.3 対応性・更新性

LR-2.2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3.1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部		建物全体・共用部		共用部		居住・宿泊部分		全体	
配慮項目	独自基準	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質													2.4
Q1 室内環境													2.6
1 音環境													
1.1 室内騒音レベル		一般事務所レベル		3.0	3.0	0.15							3.0
1.2 遮音													
1 開口部遮音性能				3.0	3.0	1.00							
2 界壁遮音性能													
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)													
4 界床遮音性能(重量衝撃源)													
1.3 吸音													
				1.0	1.0	0.20							
2 温熱環境													1.6
2.1 室温制御													
1 室温				2.2	2.2	0.50							
2 外皮性能				3.0	3.0	0.38							
3 ソーン別制御性				1.0	1.0	0.25							
2.2 湿度制御													
				1.0	1.0	0.20							
2.3 空調方式													
				1.0	1.0	0.30							
3 光・視環境													2.4
3.1 昼光利用													
1 昼光率				1.8	1.8	0.30							
2 方位別開口				1.0	1.0	0.60							
3 昼光利用設備				3.0	3.0	0.40							
3.2 グレア対策													
1 昼光制御				3.0	3.0	0.30							
3.3 照度													
				3.0	3.0	1.00							
3.4 照明制御													
				2.0	2.0	0.15							
				3.0	3.0	0.25							
4 空気環境													4.1
4.1 発生源対策													
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆の建材を使用。		5.0	5.0	1.00							
4.2 換気													
1 換気量				3.3	3.3	0.30							
2 自然換気性能		有効換気面積は床面積の1/30以上。		3.0	3.0	0.33							
3 取り入れ外気への配慮				4.0	4.0	0.33							
4.3 運用管理													
1 CO ₂ の監視				3.0	3.0	0.20							
2 喫煙の制御		建物内は禁煙。		1.0	1.0	0.50							
				5.0	5.0	0.50							
Q2 サービス性能													3.0
1 機能性													3.0
1.1 機能性・使いやすさ													
1 広さ・収納性				3.0	3.0	0.40							
2 高度情報通信設備対応				2.5	2.5	0.40							
3 バリアフリー計画	独自			3.0	3.0	0.50							
1.2 心理性・快適性													
1 広さ感・景観(天井高)		天井高さを2.7mとした。		2.3	2.3	0.30							
2 リフレッシュベース				4.0	4.0	0.33							
3 内装計画				2.0	2.0	0.33							
1.3 維持管理													
1 維持管理に配慮した設計		改修のしやすい材料の選定。		4.5	4.5	0.30							
2 維持管理用機能の確保		各階に清掃できる設備を有する。		4.0	4.0	0.50							
				5.0	5.0	0.50							
2 耐用性・信頼性													2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振													
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				2.9	2.9	0.31							
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.48							
2.2 部品・部材の耐用年数													
1 躯体材料の耐用年数				3.0	3.0	0.23							
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.1	3.1	0.33							
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	②	清掃しやすいものを選定し、更新間隔を長くする。		2.0	2.0	0.23							
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		更新しやすいように天井裏を広くした。		4.0	4.0	0.09							
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				4.0	4.0	0.08							
6 主要設備機器の更新必要間隔		更新しやすいように天井裏を広くした。		3.0	3.0	0.15							
				4.0	4.0	0.23							
2.4 信頼性													
1 空調・換気設備				2.6	2.6	0.19							
2 給排水・衛生設備				3.0	3.0	0.20							
3 電気設備				2.0	2.0	0.20							
4 機械・配管支持方法	②			3.0	3.0	0.20							
5 通信・情報設備				2.0	2.0	0.20							

3 対応性・更新性				3.1	0.29				3.1	
3.1 空間のゆとり		②	設備の改修がしやすいように階高を高くした。 耐力壁をなしとし改修しやすくした。	4.6	0.31					
1 階高のゆとり				5.0	0.60					
2 空間の形状・自由さ				4.0	0.40					
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31					
3.3 設備の更新性				2.0	0.38					
1 空調配管の更新性				2.0	0.17					
2 給排水管の更新性				1.0	0.17					
3 電気配線の更新性				3.0	0.11					
4 通信配線の更新性				3.0	0.11					
5 設備機器の更新性				1.0	0.22					
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.22							
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.39				1.7	
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30				1.0	
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		2.0	0.40				2.0	
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30				2.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50					
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50					
LR 建築物の環境負荷低減性									2.9	
LR1 エネルギー					0.40				2.9	
1 建物外皮の熱負荷抑制			外壁にALC版を採用。	5.0	0.02				5.0	
2 自然エネルギー利用				3.0	0.27				3.0	
3 設備システムの高効率化				3.5	0.42				3.5	
4 効率的運用				2.0	0.28				2.0	
集合住宅以外の評価				2.0	1.00					
4.1 モニタリング				3.0	0.50					
4.2 運用管理体制				1.0	0.50					
集合住宅の評価				-	-					
4.1 モニタリング				-	-					
4.2 運用管理体制				-	-					
LR2 資源・マテリアル					0.30				3.0	
1 水資源確保				3.4	0.15				3.4	
1.1 節水			騒音装置を採用。	4.0	0.40					
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60					
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67					
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33					
2 非再生性資源の使用量削減				3.1	0.63				3.1	
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07					
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25					
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.21					
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	OAフロア	3.0	0.21					
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-					
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	特になし。	4.0	0.25					
3 汚染物質含有材料の使用回避				2.5	0.22				2.5	
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32					
3.2 フロン・ハロンの回避				2.3	0.68					
1 消火剤				2.0	0.33					
2 発泡剤(断熱材等)				2.0	0.33					
3 冷媒				3.0	0.33					
LR3 敷地外環境					0.30				2.7	
1 地球温暖化への配慮		①		3.5	0.33				3.5	
2 地域環境への配慮				2.5	0.33				2.5	
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25					
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50					
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25					
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25					
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25					
3 交通負荷抑制		独自	敷地内に駐車場を確保。	4.0	0.25					
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25					
3 周辺環境への配慮				2.1	0.33				2.1	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40					
1 騒音		独自		3.0	0.33					
2 振動		独自		3.0	0.33					
3 悪臭				3.0	0.33					
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				1.6	0.40					
1 風害の抑制				1.0	0.70					
2 砂塵の抑制				-	-					
3 日照障害の抑制				3.0	0.30					
3.3 光害の抑制				1.6	0.20					
1 屋外照明及び屋内照明のうらみに漏れる光への対策				1.0	0.70					
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30					

重点項目スコアシート

株式会社エスラインキフ豊田支店

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.5
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.5	0.10	
② 資源の有効活用				3.0
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.1	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.12	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 外部は単純な建物形状とし景観を損なわないようにした。事務所内部は設備等の更新がしやすいようにOAフロアとした。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 F☆☆☆☆の建材を使用し、換気面積も床面積の1/15以上の確保を心掛けた。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 執務空間としては十分な広さを確保し、天井高さも事務所部分で2.7m以上確保することで広さ感は十分ある。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 建物形状を単純にすることで周囲への調和を考慮した。また、色彩についても派手な色目は避け周囲になじむ色とした。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 モデル建物法により、BPI _m =0.54、BEI _m =0.75となり、1以下としている。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 OAでリサイクル材を使用した。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 敷地内に駐車場を確保することにより、路上駐車を発生させないようにした。また、周囲の渋滞緩和に配慮して乗り入れ口の大きさ等を決定した。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。